



TITLE:

琴座の國へ

AUTHOR(S):

星見小路

CITATION:

星見小路. 琴座の國へ. 天界 1924, 4(44): 304-304

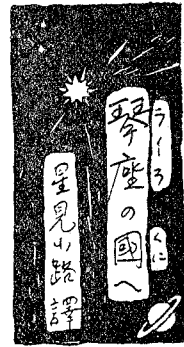
ISSUE DATE:

1924-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160161>

RIGHT:



(一)

人の子が生れ住み死す

わが大地、譬えむか、

黄金と御影と鐵と組みなせる

小さなるされど住み良き

小さなる自動車か。

一時に二千五百里

我が車、虚空を巡り、

春秋と星霜の一歳に

八十五億萬里の

道なき道を――

車輪の廻り音もなく

暗き光の夜晝に。

(二)

小さなるされど住み良き

わが車、譬えむか、

一列の汽車の輻輳
一秒に五里の道程
群がれる星の世界を
巨ひなる輝きわたる
火の球の機關車、太陽、
赤色の火星を照し、
美しき金環サタン
更に六つの星の車に
光と熱をあたえつゝ
幽玄の星の世界を
麗しき星座の國へ
音もなく天かけり行く
飛行車の名は太陽系。

(註) 地球は太陽の周圍を廻り、太陽は地球の外水星、金星、火星、小遊星、木星、土星、天王星、海王星を率ゐて空間を直線的に一秒に約五里の速度で星座の方面に走つてゐる。この有様を歌つたのである。米國のリーランド、エス、コーブランドと言ふ人が歌つた詩の一節である。この詩を譯するにあたりて全然意譯した爲、全く詩の原形を失なつてゐる。故に或は原作者の詩情に沿はなかつたかも知れない。原作を見たいと思ふ人があればポピュラー、アストロノミーの本年度の四、五月頃に出で居る。